

ERCP の Double Guidewire 法における ERCP 後膵炎のリスク因子に関する単施設後向き試験

1. 研究の対象

2020年4月～2024年12月まで未処置乳頭に対する胆管挿管でダブルガイドワイヤ法が用いられた患者さん

2. 研究目的・方法

内視鏡的逆行性胆管膵管造影（ERCP）では胆管挿管が最初の関門です。ダブルガイドワイヤ（DGW）法は通常法で胆管挿管が難しい患者さんに用いられる方法の一つです。この方法では、膵管に一旦ガイドワイヤを留置して、その上で別のガイドワイヤで胆管挿管を狙うという方法で、胆管挿管の成功率があがるというメリットがあります。しかし、その一方で ERCP 後に膵炎を起こすリスクが上昇する可能性が指摘されています。ただし、DGW 法において、どのような因子が膵炎を起こす可能性を上昇させやすいのかは分かっていません。今回の研究では、対象となる患者さんの電子カルテ内の診療データを集積し、ERCP 後に膵炎を起こしやすい原因が何かを探索することで、今後 ERCP 後の膵炎を起こす確率を減らすことを目的としています。

研究期間は、病院長許可日から 2028 年 3 月 31 日までです。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

- ・患者背景:性別、年齢、病名、胆管炎の有無と重症度、胆管径、術前血液検査結果
- ・ERCP 関連:胆管挿管法、膵炎予防のボルタレン坐薬使用の有無、膵管ステント留置の有無、膵管ガイドワイヤ留置までの時間、膵管ガイドワイヤの膵管内留置時間、処置時間、胆管挿管の成功

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

磐田市立総合病院 消化器内科 住所:静岡県磐田市大久保 512-3 電話:0538-38-5000
研究責任者：磐田市立総合病院 消化器内科 金子淳一